

所報 あきた

所報あきた 139号

令和7年3月15日発行

発行所 曹洞宗秋田県宗務所

発行責任者 袴田俊英

〒010-0812 秋田市泉三嶽根15-18

T E L (018)868-6871

F A X (018)868-6872

<http://soto-akita.com>

info@soto-akita.com

題字 能代市倫勝寺 山田晃一
写真 想花翁



○令和六年 事業報告(宗務所だより)

○五庵山抄(第十一教区の皆さんより)



野外研修(令和六年九月二十日)
秋田市 寺内神屋敷 西来院様



秋田市 下北手梨平 歓喜寺様



秋田市河辺戸島 満蔵寺様



任期の折り返しに当たって

秋田県宗務所 所長 袴田俊英

新たな年を迎え、皆さま益々ご清祥の段お喜びを申し上げます。

昨年十二月十日に東北管区の事務局を無事福島県宗務所に引き継ぎ、また今期宗務所の任期も半ばを過ぎました。この二年間は太祖瑩山禅師七回大遠忌に係る諸事業に追われる日々でした。初年は予修法要を併修した管区檀信徒集会、昨年は大本山總持寺様における本法要、そして本山研修会は大遠忌報恩参拝とさせていただきました。

昨年元日に発生した能登半島地震は能登總持寺祖院にも甚大な被害を及ぼし、大遠忌行事も規模を縮小せざるを得なくなりました。四月の三週間に及ぶ本法要の最終日に行われた法定聚会は、通常は全宗務所長参加であります。この度は管区長のみを参列となり、東北八宗務所を代表して焼香してまいりました。

このまま無事に一連の行持も終わるのではないかと思われたのですが、九月二十一日からの線状降水帯による集中豪雨が能登

の地を襲い、再び大きな被害をもたらしました。現在も奥能登の一部は水道が不通のままであるとのこと。十二月に開催された全国所長会の席上、石川県宗務所長で永光寺住職の屋敷老師より、老住職夫妻が毎日水汲みをしている寺院もあるとのことがあり。復興までにはまだまだ時間がかかることと思われ、息の長い支援を続けていかなければならないと思っております。

足元に目を向ければ、秋田県内も七月の集中豪雨により、被災されたご寺院様そして多くの檀信徒の皆様がおられます。令和五年の豪雨災害の記憶も新しい中、再び襲ってきた天災に気候変動の恐ろしさを肌で感じております。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

折り返し地点の先を見ますと、年度が替わればすぐに梅花流全国奉詠大会が控えています。今回は沖縄の地で開催されることとなりました。終戦八十年の節目に当たり、戦争犠牲者の慰霊を目的とし、五月十五日

に沖縄アリーナで行われます。梅花講員さん以外の方でも参加できる大会です。秋田からは離れた土地であり、昨今は旅行代金も上昇の一途ではありますが、ビーエス観光様の企業努力で旅行代金を十万円台で抑えていただきました。お陰様で企画旅行定員は三十名でしたが、現在四十名を超えるお申し込みをいただいております。ご協力に深く感謝致します。ご参加の皆さんとって意義深いものになりますよう、努めたいと存じます。

本年も秋には諸行事が目白押しとなっております。各地で山門法要も予定されております。十月に予定される現職研修は、昨年同様日程を一日に集約しての開催とさせていただきます。同月はずぐに本山研修となりますが、本年は永平寺様を会場に行う予定です。三月二十四日の通常所会でご承認いただければ所報にてお知らせいたしますが、宗務所にお問い合せいただければお伝えいたします。

任期も半分務め終わりましたが、まさに怒涛の二年間でした。所員の獅子奮迅の働きとともに、禅センター各部会の方々の絶大なご協力と県内各御寺院様・ご家族様のご支援の賜物と、紙面を借りて感謝を申し上げます。これからもご教導よろしく願っています。

事業報告(宗務所だより)

九月二十日

仏教講座 野外研修

西来院・歓喜寺・満蔵寺様

参加二十一名・寺院十一名

野外研修に参加して

佐藤 明子

私が野外研修に参加するのは、今回で四回目となります。初めて「行きませんか」と誘われた時は、お寺様とは縁遠い生活をしておりました。「とりあえず行ってみよう」と思い、軽い気持ちで参加致しました。しかし、回を重ねるうちに、それぞれの寺院様の作り方の違いや歴史を感じさせる建物、ご仏像のお顔表情など興味深いものばかりで、感動の連続です。すっかりお寺の魅力に、はまっています。

今回、最初に伺った西来院様では涅槃図の素晴らしさや、ずらりと並ばれた羅漢様に圧倒されました。ま

た、この地域が寺内と呼ばれるようになった由來などをご説明いただきました。ご住職が藤子不二雄先生とお知り合いとのこと、ご一緒の写真や、プロゴルファー猿の原画も拝見することが出来ました。



次の歓喜寺様では、規模の大きさに圧倒されました。元々旭北地区にあつたお寺が、都市開発による道路拡幅の為に、今の下北手に引越されたそうです。その際、境内にある全てのお墓を移動する為、土葬されていた時代のご遺骨収集に、三年もの歳月がかかったとお話を伺いました。大変なご難儀だったと思います。広い境内ではダリアの花が見頃を迎えていました。私たちが目を楽しませていただきましたが、御檀家のご先祖様方も喜ばれているよ

うに思いました。

次の満蔵寺様では、玄関に笑顔の布袋様がおられ、思わずこちらも微笑んでしまいました。お庭には赤い曼殊沙華が咲いており、ひときわ印象に残っております。いただいた黒豆茶はとても美味しく、喉の渇きも癒やされました。

この野外研修に参加しなければ、県内のお寺さんと雖も見学できる機会は多くはないと思います。ご先祖様の供養も兼ねて、また来年も参加したいと思えます。



心の遠足

長谷川 京子

二十日の明け方に雷鳴と雨音で目が覚め、「今日の遠足大丈夫かな」と寝ぼけた頭で心配しながらも朝までしっかり熟睡。心地よく目覚めた時、どんより重たい雨雲が空一面を覆っていました。しかし、このお寺さんを巡る研修バスツアーは、毎年一緒に参加している友人との恒例行事なので、私にとっては少々の悪天

候など関係なくとても楽しい機会なのです。

職場に近い西来院様、大きな大きな（縦九尺七分、横十尺三寸七分）織物の涅槃図が大変珍しく、しかもあまり描かれる事のない動物もその中におりました。この涅槃図製作には、ご先祖も貢献したと聞いています。また拝見でき報われました。よかったです。

ご近所だった歓喜寺様、数百人は研修できる大きな広間とご本堂に驚きました。端から端まで襖を開けた

ところがみたいと言う希望も叶えてくださり、その全貌を見ることができました。とても感動しております。『たまに来るから楽しいのよ、毎日掃除する事考えてごらんよ。』と御引率の住職様に言われた時、改めてお寺の尊さを感じました。

副住職様から御住職様へなりたて満蔵寺様、観音堂の聖観世音菩薩様は、一組のご夫婦が子供の健康を祈ってお祀りしたものとのご説明がありました。朗らかで温かい笑顔の御住職様が今おられるのも、この観

音様のお陰なのかもしれません。

日常では気ぜわしく心が、素直・正直になれない事がありますが、お寺様を巡る時間は深い悩みに一筋の光を頂き、年月で失いかけた童心を呼び起こし、繋がる命とご縁に感謝する心を取り戻せます。研修が終わる頃にはいつもお日様が射した祝福の心になれます。一年に一度の私の心の遠足です。

日程

- 九時三十分 禅センター出発
- 十時 西来院様拝観
- 十一時三十分 昼食
- 十三時 歓喜寺様拝観
- 十四時三十分 満蔵寺様拝観
- 十六時 禅センター到着

（拝観時間は各約1時間）





「太祖瑩山紹瑾禪師の御生涯」
 講師 曹洞宗総合研究センター
 研究員 秦 慧洲 老師

十月八日
 現職研修会
 会場 秋田市 歡喜寺様



「大般若理趣分作法」
 講師 愛知県花井寺御住職
 井上 義臣 老師



「グリーンケアと宗教者」
 在家の祈りと菩薩行・三聚淨戒
 講師 上智大学教授
 曹洞宗総合研究所講師
 島園 進 先生



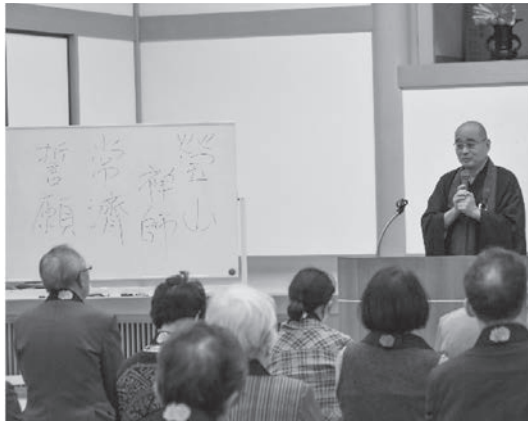
開講式

一日目は飛行機で移動、都内見学(浜離宮他) 午後ご本山到着、研修開始「開講式・法話・人権学習・夕食(焼香師様随伴にて、お祝い上げ膳を頂戴)・坐禅研修他・就寝。」
二日目は坐禅・朝課・太祖瑩山禅師報恩諷経・梅花流奉詠・朝食・閉講式」九時ご本山出発、品川の泉岳寺様に参拝、安房鴨川温泉に宿泊。
三日目は、鴨川シーワールド見学後、秋田に戻りました。

十月二十一〜二十三日
本山研修(大本山總持寺)
太祖瑩山紹瑾禅師七百回大遠忌
参加 檀信徒 六十六名
随伴寺院 五名 他所員



夕食(薬石・上げ膳)



法話 本山布教教化部長
花和 浩明 老師



坐禅指導 本山国際室主事
ゲツペルト 昭元 老師



人権学習



二日目 早朝 暁天坐禅



一日目 夕食後 夜坐



朝課 参加者進前焼香



朝課 大祖堂



報恩諷経 参加者進前焼香



報恩諷経 焼香師 袴田所長



龍門寺 浅田高明師範
恵林寺 本間秋彦師範



梅花流詠讚歌 献詠

十一月五日
 寺族研修会
 会場 宗務所・禅センター
 参加 四十五名

寺族中央集会報告
 講師 第十二教区
 陽田寺寺族 佐々木智子さん



寺族中央集会資料と同じく集会の「内局との質疑応答」回答集よりご報告いただきました。

報告資料
 防災・減災における寺院の役割
 大阪大学大学院 稲場圭信教授
 災害と女性の人權
 シャンティ国際ボランティア
 石塚 咲さん



大祖瑩山紹瑾禅師のご生涯
 講師 北海道(宗務庁派遣)
 廣徳寺住職 高橋正英 老師

十一月十一日
 禅を聞く会
 会場 秋田キャッスルホテル
 参加 三百二十名

記念講演
 「仏教のいま・これから」
 講師 東北福祉大学学長
 千葉 公慈 老師



メディアでも様々な宗門のみ教えを、布教されている千葉公慈老師をお招きして「仏教の現状とこれからの信仰について」わかりやすくご講演いただきました。



笑顔の絶えることのない老師のお人柄とお話によって、聴講された皆さんと一緒に有意義で楽しい時間を共有させていただきました。



令和六年能登半島地震
復興祈念大般若会



導師
袴田所長

⑬ 眺江寺住職 小関川達雄 宗師
住職永年勤続四十年



住職永年勤続六十年
⑥ 龍泉寺住職 佐藤 良徳 宗師



設立集会(式典)
被表彰者(○印の中は教区番号)

○今後ともよろしくお願ひ致します

- 寺族表彰
- ② 鷲林寺寺族 菅野 悠子様
 - ③ 高建寺寺族 佐藤真理子様
 - ① 玄心寺寺族 福本 艶子様
 - ② 天昌寺寺族 小澤 兼子様
 - ③ 瑞林寺寺族 和田 祐子様
 - ⑥ 永傳寺寺族 武藤 玲子様
 - ⑦ 南翁寺寺族 杉村 直美様
 - ⑧ 曹溪寺寺族 伊藤 真美様
 - ⑬ 清松寺寺族 佐藤 ちよちヨミン様

- ③ 泉流寺住職 佐藤 道幸 宗師
- ③ 慈音寺住職 宮本 康博 宗師
- ⑤ 永巖寺住職 朽木 光紹 宗師
- ⑥ 永傳寺住職 武藤 直哉 宗師
- ⑫ 松連寺住職 市橋 晋英 宗師
- 住職永年勤続三十年
- ① 光明寺住職 伊藤 仙峰 宗師
- ⑥ 春光寺住職 荻津 秀廣 宗師
- ⑩ 龍淵寺住職 奥山 亮修 宗師
- ⑪ 萬松寺住職 高田 秀法 宗師
- ⑰ 満友寺住職 鎌田 俊龍 宗師
- 昨年度住職永年勤続三十年
- ② 長福寺住職 市橋 文英 宗師
- ③ 瑞光寺住職 高橋 利寿 宗師
- ③ 高建寺住職 佐藤 成孝 宗師



○仏教語解説
東光寺副住 鈴木慶道師



○坐禅指導
珠林寺住職 鮎川義寛師

九月九日 仏教講座②
写経会 参加 十二名
指導 福嚴寺住職 栗谷大三師
円福寺副住 小原眞龍師
講座 参加 二十四名

十一月二十九日 仏教講座③
写経会 参加 十四名
指導 林清寺副住 松山純正師
東傳寺住職 鈴木朋幸師
講座 参加 二十名



○講義
東傳寺住職 鈴木智之師



○仏教マメ知識
桂園寺住職 草薨正俊師



○仏教語解説
永泉寺副住 猪股尚典師



○仏教マメ知識
玉林寺住職 齋藤勇人師



○坐禅指導
寶袋院住職 森田治人師



○閉講式(納経供養)
恩徳寺住職 岩館裕章布教部長



○講師 圓通寺住職 菅原芳徳師



主催者
東北管区寺族会
伊藤令子会長

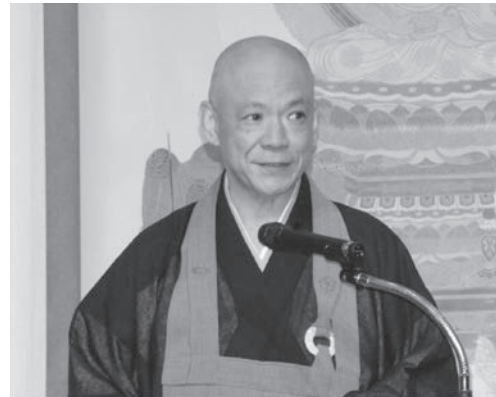


開講式
導師 袴田俊英 東北管区長

九月三〜四日
東北管区寺族会研修会
会場 秋田キャッスルホテル
参加 約二七〇名



講座「禅の精進料理」
広島市普門寺住職 吉村昇洋老師



記念講演「禅僧の母、禅僧の妻」
北秋田市龍泉寺住職 佐藤俊晃老師



秋 田 大慈寺 小野美代子さん



山形 二洞松寺 小野 亮子さん



秋 田 長泉寺 中村 利恵さん



寺族フォーラム(質問者)
秋 田 洞昌寺 高橋なな子さん



岩 手 善龍寺 竹内 由子さん



宮 城 圓通院 花釜 祥子さん



山形 二高国寺 西山 信子さん



山形 三長秀寺 木村美津枝さん

五番山抄



この紙面は皆様の思惑
を掲載するフリーペー
ジです

第十一教区の皆さんの声

先住忌を通して気付いた感謝

寶珠寺住職 佐々木 孝 史

去る十月二十日に父「祖要孝典大和尚」十七回忌、祖父「中興一貫孝淳大和尚」三十三回忌、祖母「貞心良光禪尼」十三回忌を厳修致しました。ご寺院様、檀信徒の皆様、親類縁者、合わせて五十名もの方々にご参列頂きました。心より感謝申し上げます。

この法要に向けて準備を進めていくと色々な「良いこと」が起こりました。

一つ、祖父の代からずっと開かず

じまいだった金庫の、鍵と暗証番号が見つかり開けることに成功しました。中からお金やお宝が！とはいかず、当時の領収書などの事務資料が入っており少し残念でしたが、当時を知る貴重な資料でした。

一つ、数十年前の写真がたくさん出てきました。若かりし頃の父・祖父・祖母、ご寺院様方、家族などの写真です。当時の流行りでしょうが、父は長髪で可愛らしいお顔でしたし、祖父・祖母は美男美女、赤ん坊だった私など、時間を忘れて眺めてしまいました。

一つ、十数年以上お会い出来ていなかった親戚の方と久しぶりの再会を果たしました。本当に久しぶりにて、私の小さい頃の思い出話や、私の知らない家族・親戚の話など、先ほどの写真を見ながら懐かしいひと時を過ごしました。「このような機会がないとなかなかお会いできないよなあ」と思い、少し寂しくも感じます。他にも挙げだすとキリがないほどの「良い事」が起きました。

ふと考えてみますと、この「良い事」は、私自身が招いたことではなく、今は亡き人が「巡り合わせてく

れた」ものなのだと思います。父・祖父・祖母の法要が無ければ、この三人が居なければこのような「良い事」は起こり得ませんでした。だからこそ今は亡き人に対して「ありがとう」と報恩・感謝を伝えるべきなのだと思います。姿かたちは見えなくても、直接伝えることは出来ずとも、亡き人への感謝「ありがとう」が大切なのだと気付かされた今回の法要でした。

変化

吉祥院住職 金 澤 一 弘

コロナ禍の日々より、制限も除々に無くなり、以前の日常に戻ってきています。

ただ、葬儀、法事に関しては、大きく変わったと感じています。

地元では、葬儀は、火葬、通夜、葬式の形式ですが、通夜の後は、通夜ぶるまい、初七日の後は、御齋とありましたが、通夜ぶるまいに参加する事は激減し、御齋も、半分程度は、行われません。

喪主をはじめ、親族、関係者と親

しく話をする機会が減り、寺と御檀家との関係が、遠くなっている気がします。

一度変わってしまった事は、なかなか元に戻らないと思います。別の方法で関係を深めていく事が大切だと感じています。

以前より愛想良く接しているかどうかと考えています。(笑い) 私事でも孫が三人!。変わりました。

葬儀の研究

大圓寺住職 梅 津 道 光

日常の檀信徒葬儀について、私なりの見解を述べたい。

今まで多く葬儀を行ってきた。達成感と不本意な思いを繰り返し、時には苦しい思い出もあった。

ご本山で安居していた時葬儀終了後、若い娘さんが号泣してお礼の言葉をいただいた際は、僧侶となつてこの上ない喜びを感じた。平成八年に大圓寺に入寺し、慣れない土地で様々な経験をした。特に葬儀は、個々の檀家さんよっても異なり、集落での葬儀、町場での葬儀、時には檀家

さんが他宗教に入信し、その信者さんが多く参列している中での葬儀など様々であった。更に余道に帰依せざれてある。

昨今、コロナ禍では、通夜が無くなり家族葬が増えた。「通夜は内葬儀(授戒)・葬儀は外葬儀(引導法語)」である。今の葬儀は内葬儀と外葬儀と一本化になっている。

○内葬儀(授戒)

授戒は仏性の自覚であり、三宝に三種あり、一体三宝は、明星一見の悟り。現前三宝は、お釈迦様への人格の信仰。住持三宝は、伽藍・仏像の護持。その三つが、三位一体である。

十重禁戒の十種は、他宗では、厳格に守る宗派もあるが、宗門は禅戒一如で戒律思想からの懸繩を離れたものである。

懺悔滅罪は、「もし懺悔せんと欲せば端坐し実相を想え諸罪は霜露の如く慧日よく消除す」【法華経文殊師利行法品】

懺悔とは、端坐の坐禅の姿がそのまま悟りである。

また檀信徒葬儀の戒名は故人の生き方や性格職業を考慮して、遺族が

心に残るものにしたいたいものである。

○外葬儀(引導法語)

大宝楼閣は三返真読のようによつくりと読み、引導法語は、禅語や仏教用語をふんだんに使い朗々と自信をもつて読み上げたい。法語は奥深く難解であり、さらなる研究につとめたいと思う。

法炬三匝(円相) 円相は釈尊の一大事因縁、明星一見の悟り、大地有情同時成道である。生死即涅槃、涅槃即生死と唱え左右三相し自己と宇宙は一体なりと念じ、宇宙には時間と空間はなく超越している。生死一如であり死は存在しない。だから故人を安心して送ることができる。

紙面の関係上、枚数が限られている為に、大変大雑把にしか説明できず申し訳ないが「衆生仏戒を受くれば、即ち諸仏の位に入る」というように、葬儀は授戒の成仏道である。葬儀の良し悪しは、葬儀終了時に喪主の態度を見れば、一目瞭然でわかる。拜む側と拜まれる側の信仰が、一つにならなければ故人も成仏できないであろう。さらなる参究をしてより良い葬儀ができるよう努めたい。

聞き屋

圓通寺住職 菅原芳徳

繁華街である名古屋駅前の路上で「聞き屋」の看板を立てて路上に座り、通りすがりの見知らぬ人の「悩み・愚痴・自慢話」を聞く若者がいるらしい。夜八時ともなると誰彼なくふらつと足を止めてその若者に公道でプライベートな話を打ち明けようだ。

「聞き屋」の看板を立てるだけあって、完全に聞き役に徹し、相槌を打つにしてもごくごく短い一言のようである。アルバイトをしながらこの活動を続ける理由は、「情性」とのことであるが、なによりも親身になつてうなずくことを心掛けているという。料金は無料との事なので極端な奉仕行為と言えるかもしれないが、(誤解を恐れず言えば)逆に窮極的な嗜好と捉えられる事もあったのでは…。

「コロナ禍であったここ数年は、三百日以上を駅前で過ごしていた様だが、収束後、波が引くように訪れる人は減ったらしい。

斯く言う私自身もある社団法人の電話相談に関わらせて頂いている。

こちら肉声での相槌ではあるが対面ではないので、良くも悪くも掛かる負担はかなり軽減されているはずであるが、それでも中々に難しいことは多々ある。日数も数えるほどなので、こちらの若者の活動の足元にも及ばない。ただ、時々この活動を続ける意義と意思を再確認したくなる時がある。

「いろいろな人が自分の元に来てくれて、救われた部分もあったかもしれない」と軽やかにそして躊躇いなく話す若者の姿に、人の尊さとは何か!?!という事を考える機会を頂けた様な気がした。

【必ず人は人に救われるものなので頼って欲しい】…いつかこんな風に応えられる人になれたなら…合掌

デジタルか？

長福寺住職 吉田 順一

世の中はコロナ禍と言われ、行事やイベントが次々と中止となった頃である。

仏参の減少や葬儀のお斎も無くなり、改めてその時間の過ごし方を考えた所、過去帳や墓地図、位牌堂の厨子の並びなど、當寺のデジタル化作業について本腰を入れた。イメージとしては、パソコン検索で欲しい情報を瞬時に把握する、と言つ具合である。

一年、二年…。時間を見つけてはコツコツと地道に作業を続けた。しかし、その作業も決して楽なものではない。本人確認を取る為に、墓地や位牌堂を行ったり来たりの際り返しの日々でもあった。

現在に於いては大方完成したが、過去帳については十分な年代まで入力を終えたので、ひとまずこれでよしとする。

使い慣れるとやはり便利なものがある。欲しい情報を瞬時に把握出来る事もあるが、外の暑さ寒さも関係

なく、机の上のパソコン一つで大抵の調べ物ができるのは有難い。

ある日、県南の寺院法要後の帰り道の事。来た道を戻る秋田自動車道ルートが一番無難だが、「せっかくだから」と岩手県から東北自動車道で鹿角まで北上するルートにナビを設定した。車を走らせている途中で『しばらく道なりです』とナビの音声案内。しかし、前方からは高速道路の案内看板がどんどん迫ってくるではないか…。「ん!?」と気づいた頃には時すでに遅しで、無常にも車は『秋田自動車道入口』に吸い込まれて行くのであった…。辺りが薄暗くなり始めた頃に隣町の小坂北ICで降車。隣町とはいえ、ここでもナビ頼り。すると、突如として見覚えのある景色にぶつかかった。「この道に繋がっていたのか…」なぜか不思議と感動を覚えるものである。

その事と同時に、「ナビは便利だが、ナビばかりを頼りにしていると道を覚えれない」と耳にした事をふと思ひ出す。確かに、まだナビが普及していなかった年代の方々は道に詳しい。私が幼い頃の話だが、大抵の車には地図帳が備えられていたと記

憶している。当時の人はその地図帳を広げ、目に映る景色や町並みを頭に入れながら車を走らせていたのだろう。

ページの至る所に指先の跡が染み込んだ歴代の過去帳。色あせてポロポロに傷んだ墓地図。その時代だからと言えばそれまでだが、幾度となく読み返された形跡が一目で伺える。検索などの便利な機能はもちろん無いが、紙のページを一枚一枚と繰る度に、在りし日の姿は忘れられない事無く、いつまでも思い出されていたのだろうと想像する。

日進月歩の世の中。しかし、世の中が便利になる程に、忘れてはならない事の方が多くなっていく様な気がする。アナログがデジタルか？改めて見つめ直す良い機会なのかもしれない。

崇敬

曹源院住職 佐々木 雅也

コロナ騒動辺りからだろうか、今や一般的に使われている「エビデンス」。アフセントは分からないが、ちよつとカッコイイ。科学的根拠や証拠、裏付けといった意味で主にビジネスシーンで使われている。我々の業界では滅多にお目にかかる事はないと思っていたが、先日生物学者で青山学院大学教授の福岡伸一さんの『利他的な脳』という記事を目にした。

「人間の寿命がここまで長くなったのは、私達がつつ『利他的な脳』の賜物である。多くの生き物は子供を作つてすぐに命を次の世代に譲るが、人間だけは生殖年齢を終えてからも長い時間を獲得した初めての生物である。長寿化ができたのは、他者を助けようとする利他性が、脳の神経回路の基礎メカニズムとして備わっているからで、とりわけ生殖年齢を終えた世代が次世代に積極的知識を授けてきたことが大きい」という。福岡さんによれば、最新の研

究によって生物には遺伝子レベルで利他的な振る舞いがすでに備わっているという。「積極的に他者を助けて、脳に存在する利他性に関する神経回路を活性化させることで自分自身も生物として強く、また幸福に生きられる。今まで生物学的には、利己的な行動が生命の進化をもたらしてきたというのが主流でした。しかし生物繁栄の要が利己より利他であり、先の新型コロナウイルスを克服できたのも自分の行動を制御して相手と距離を取り、ウイルスの蔓延を防ごうとした利他性の賜物だと言えるでしょう。このように人間が他者のために行動できるのは、遺伝子レベルで利他性が組み込まれていること。利他性を発揮した際の人間の脳の状態を徹底的に調査した結果、他者と自分を重ね合わせ、肯定的にとらえる働きがあることが判明しました。つまり私たちが利他性を発揮すればするほど、他者とのコミュニケーションが円滑になり、お互いに恩恵を受けられるのだ。利他的な脳を活性化させられれば、相手がしてくれた利他的行為を、しっかり受け止めて次の誰かに渡す。そうして絶

えず利他的な行為を循環させて、その中に身を置くことにより、社会の発展に繋がってゆくことが最新の研究によって証明されつつある」とのこと。

これって…。まさしく利他行のエビデンスではないか！

スゲエ仏教マジリスペクト。

アナログ・デジタル

萬松寺住職 高田 秀法

近頃はスマホのキャッシュレスで色々なポイントが付き、スマホをレジにかざすだけで会計ができる便利な時代になりました。そういう時代の流れに取り残されていた小生ですが、意を決しペイペイを入れることができませんでした。やれパスワード、やれID、メールアドレスで苦戦し、携帯電話番号さえ覚えていない愚僧なもので漸く根気強く出来たことに安堵しておりました。

ペイペイ同士で手数料なしでお金を送れ、コンビニに行かなくても、電気、水道、ガス、税金など支払えるなんと便利なことでありましょ

か。これに気を良くしスマホに入っている孫の写真をコンビニで印刷することに、なんとか成功。なにか一つワンランクアップした自分自身がありました。

同時にこのお寺に住職として来た時のことを思い出しました。携帯電話はなく、ポケベルでした。ワープロで文書作り、インターネットは普及しておらず、アナログな日常でありました。これから三十年、子供や孫たちにはどのような時代で来るのでありましょか。

さて、アナログな生活、デジタルな生活、どちらも人間が操るものであり、人間が介するか、コンピューターが介するかの違いがあれば、便利な方向へ進むのが人間の性だと思えます。危惧されるのは「人と人との関係」が、希薄になりつつある現状を憂うものであります。現在を生きている私たちであるので大きな潮流に乗っても、たまには対岸に寄り上流を振り返ることも必要なのかも知れません。

寺自慢

長年寺住職 松井 直行

それほどでもないかと思いつつ二つもです。

一つは、開基家が現在も寺檀関係にあることです。寺史によれば當山は雑草五二〇年程になります。南部九戸に始まり、盛岡城が建つ頃には紫波にあり、花輪に有つては三五〇年を数えます。全て開基家中野氏(花輪南部氏)の采地替えとともに綴られました。

中野氏は戦国時代末から南部宗家に忠誠を尽くした南部御三家で、秀吉の天下平定最後の戦といわれる奥州仕置きで滅亡した九戸政實の弟です。兄の乱にも組みせず、関ヶ原の戦、大阪の陣にも出兵し、伊達・津軽・秋田のお境警護、戊辰の役など乱世を生きた一門です。「刀傷が元で」、「毒酒を盛られて」などと不穏当な書き添えも見られ、代々の難儀とともに、乱世を乗り越える知略と命脈を繋ぐ稀有な縁と不思議な力を感じます。十七代目になる現当主南部さんは先年の身内の不幸により今

年は三回忌の法要に参られ、代々の眠る墓前に香を手向けております。

二つ目は、寺のために集う青壮年の会です。先代住職の時、五十年近くにもなると思いますが、當山としては大きな法要がありました。一番の問題は護持会役員総出でも不足する人手の確保でした。その時の総代

さん方が檀家の有志を募り、集まった八十人ほどのメンバーが始まりです。法要終了後の席で「この集いを一時のもので終わらせず、今後は寺のためと、自己研鑽のために大いに活用しよう」との総代さんの挨拶があり、命名されたのが、山号を頂く「鳳林会」でした。法要の支援・坐禅会・懇親会、時宜に応じて集う力には誠に心強いものがありました。しかし幾十年の歲月、寺が静かであれば集いは遠ざかるものです。そんな折、メンバーから「寺の鎮守の祭りを会でやろう」との意見が出されました。戦後、氏子と信者で細々と行なっていた祭礼を、檀家や地域の祭典として盛り上げるべく、鳳林会による「桃ノ木稻荷神社」のお祭りが始まりました。爾来三十二年、年を重ね今は地域の風物詩となってお

ります。

こうして寺と共に歩んできた鳳林会ですが、発足の機縁を作った総代さんも、祭典始りの糸口となったメンバーも今は亡く、高齢化は否めません。次世代への引き継ぎに、皆で努めているところです。

大きなイチヨウの木

長年寺副住職 松井祐司

長年寺には高さが三十メートル近い大きなイチヨウの木があり、毎年秋になると実をつけて一斉に落ち始めます。

二十年ほど前までは檀家さんや地域の人達が袋やバケツを持って拾いに来たものですが（中にはトラックにドラム缶を載せて来た人もいて、住職に怒られていました）。今では来る人もほとんどおらず、車に踏み潰されてかぐわしい香りを境内中撒き散らしています。

拾ってきたぎんなんは、まず干して外の皮を腐らせます。匂いはどんどん増していき、とても室内には置いておくことはできず、外で天日干

しにします。次に腐らせた皮を水でこそぎ落とし、中心の固い種をキレイに洗って、さらに数日乾燥させてから、フライパンなどでから煎りしたり、ダルマストープの上で炙ったり、今では封筒に入れて電子レンジでチン！なんて方法もあります。加熱調理をして、固い殻を割って、

よつやく食べることが出来ます。□に入るまでの数々の手間と時間を考えると、「拾っていいのかな：」とはならないのかもしれませんが、さすがその苦勞を吹き飛ばすほどの、旬の滋味をかみしめる事ができるのは頑張った人の特権です。

今は簡単に美味しいものが手に入る時代です。私も利用するのでファーストフードをとにかく言つつもりはまったくありませんが、食べるまでのご苦勞に思いを馳せる時間がどんどん減ってきているように感じられます。

宗門には「五観の偈」というすばらしいお経があります。「功の多少を計り、彼の来処を量る」そんなことを思いながら今年もぎんなんの片付けをしました。

散骨について

長泉寺住職 奈良光英

さて、人はある程度の年齢を経ますと、自分の死後のことが気になりだし、家族周囲の人に「死後はああもしてくれ、こうもしてくれ」と言いう事が多くなります。

私が鶴見の大本山總持寺総受付の責任者として勤めていた時のことです。ひとりの老婦人が相談に見えられ「実は、夫から自分が死んだら海に散骨してくれと遺言されています。先日船で散骨に行きました。お骨を少し撒きましたが、そのうちに撒くことができなくなり、帰って帰ってきました。お骨は自宅に置いていますが、困っています。どうしたらよいでしょうか。」とのこと。

このことは、菩提寺様には内緒で行ったようでした。私が「菩提寺の和尚様に、これまでの経緯を正直にお話し、境内の墓地への埋骨をお願いしてみても如何でしょうか。多分、絶対ダメだとは言われなと思います。」と助言しますと、納得したご様子で帰って行かれました。そ

の後、相談には見えられませんでしたので、恐らく良い方向に進んだことと、勝手に想像しております。

そのことがあつてからは、自分の死後のことを相手の気持ちを考えないで、安易に頼んでは不味いのではないかと考えるようになりました。死後のことは残された人に総てお任せすることです。

トピックス

◎令和六年秋の叙勲 瑞宝双光章
第六教区 永傳寺 武藤直哉老師

保護司として、犯罪や非行をした人の立ち直りを、地域で支える活動に長年に渡り尽力されました。受章おめでとうございます。

九月二十七日
梅花流宗務所検定会 (県北)
会場 浄運寺様
受検者 寺族一名 檀信徒九名

十月四日

同宗務所検定会 (中央・県南)
会場 秋田県宗務所
受検者 檀信徒 十六名



十一月二十二日

宗務所長杯スポーツ大会
会場 秋田市大町5丁目
ブルックリンストライク
ボウリング大会 参加二十一名

お詫び

たくさんのご寄稿をいただきながら、昨年に続き作成が遅れました。非力を痛感しております。ここにお詫び申します。 担当 佐藤徳祐

令和七年度 山門法要 (予定)

日程	教区	寺院名	法要
7月26～27日	3教区	慶祥寺	晋山・結制・退董
10月4～5日	1教区	長泉寺	本葬
10月12日	13教区	萬境寺	本葬
10月17～18日	9教区	長泉寺	晋山・結制
10月18～19日	6教区	善福寺	晋山・結制
10月24～25日	3教区	瑞光寺	晋山・結制・退董
10月25～26日	12教区	満蔵寺	晋山・結制・退董
10月25～26日	7教区	福城寺	晋山・結制・退董
10月31日～ 11月1日	8教区	東源寺	晋山・結制・退董
11月2～3日	16教区	永泉寺	晋山
11月13日	1教区	正應寺	晋山



東北管区寺族会研修会
歓迎 なまはげ 有志



寺族会研修会歓迎セレモニー
西馬音内盆踊り「北の盆」



禅を聞く会 梅花流詠讃歌
師範・詠範の会の皆さん

ありがとうございます。



現職研修会 ご参加の皆さん



禅を聞く会 ご参加の皆さん



大本山總持寺 太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌
曹洞宗秋田県宗務所檀信徒本山研修会 令和6年10月22日



令和6年度 曹洞宗秋田県宗務所現職研修会 令和6年10月8日